

「青年国際交流事業の効果測定・評価に関する検討会」の開催について

〔平成 24 年 7 月 6 日〕
〔内閣府特命担当大臣決定〕

1. 趣旨

内閣府の青年国際交流事業に関し、効果の測定方法及びそれに基づく効果測定並びに評価について検討するため、青年国際交流事業の効果測定・評価に関する検討会（以下「検討会」という。）を開催する。

2. 構成員

- (1) 検討会は、別紙に掲げる有識者をもって構成し、内閣府大臣政務官（青年国際交流担当）（以下「大臣政務官」という。）が開催する。ただし、大臣政務官は、必要と認める場合、構成員を追加することができる。
- (2) 大臣政務官は、有識者の中から、検討会の座長を依頼する。
- (3) 検討会は、必要に応じ、その他の関係者の出席を求めることができる。

3. 検討会の庶務

検討会の庶務は、子ども若者・子育て施策総合推進室において処理する。

4. その他

前各項に定めるもののほか、検討会の運営に関する事項その他必要な事項は、座長が定める。

公開プロセスでの評価結果（青年国際交流事業）

<p>(評価結果) 廃止</p>

<p>〈取りまとめコメント〉</p> <p>全体プログラム、スキームの大幅な見直し、改善、効果測定がない限り廃止するべきである。様々な御意見があったことを踏まえつつ、十分検討し対応する。</p>

□〈評価者（外部有識者）の評価〉

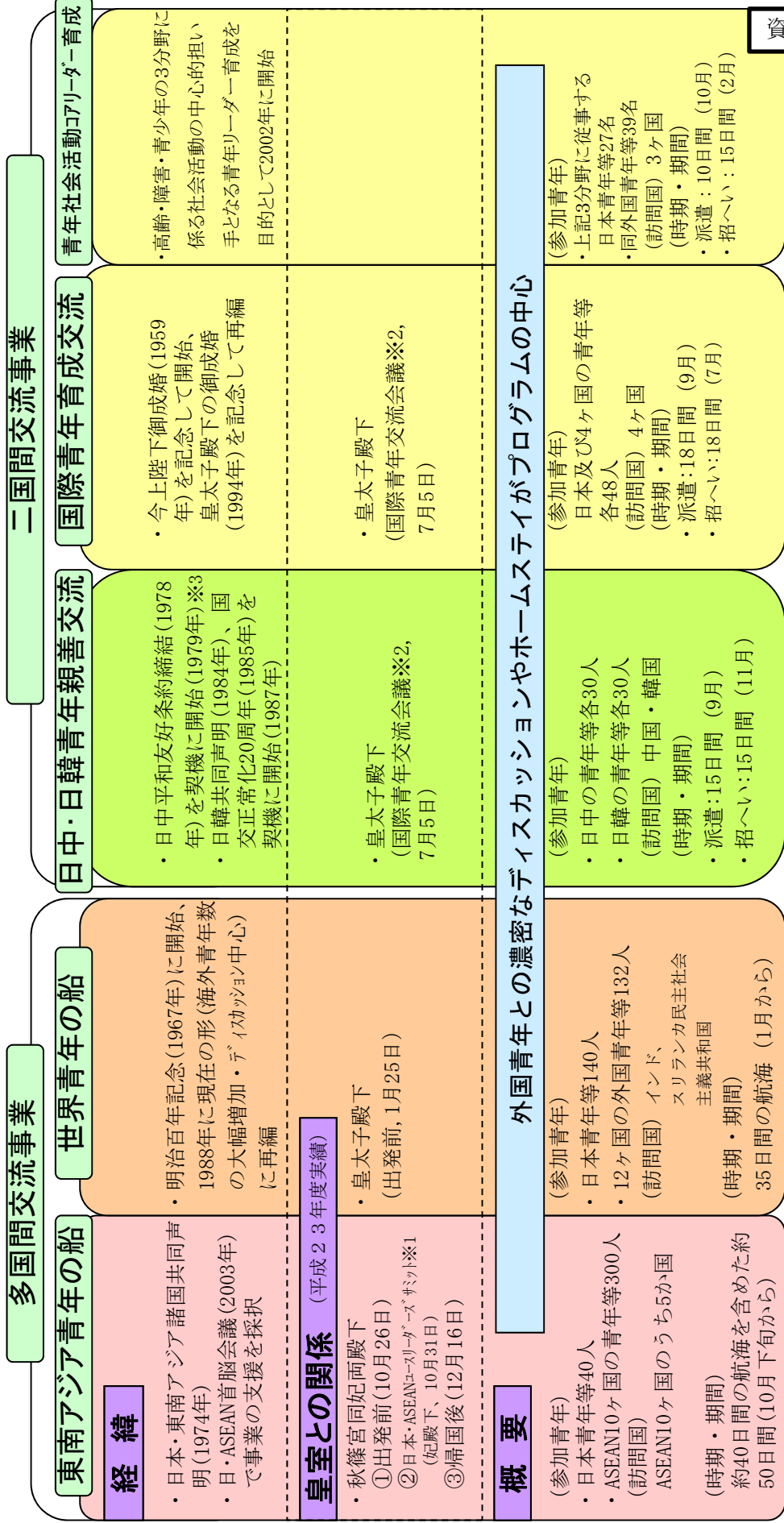
- イ 特に改善は要しない 0名
- ロ 部分的な改善を要する 1名
- ハ 大幅な改善を要する 2名
- ニ 廃止すべき 3名

■評価者のコメント

- ・ 船事業に関しては廃止。高コストを正当化する理由が全く示されていない
- ・ 一者入札についても理由が曖昧
- ・ 船であることの効果が費用を上回ると考えにくい
- ・ 研修プログラムの密度が薄い
- ・ 効果測定努力が不十分で、税金投入を正当化するだけの説明責任を果たしていない
- ・ グローバル人材の育成が目的であるならば50年前と大きく時代環境は変わっている現状、若者一人一人の自立性、具体性、積極性に繋がる教育風土こそ、今求められている
- ・ 1割に満たない自己負担額設定は国民利益への波及も含め理解を得られない、やめることをまず実行
- ・ 交流事業の事業毎の内容は変化しているとのことであるが、日本が経費を負担して実施するという基本形は変わっていない、昭和34年以降の高度成長、世界第2の経済大国という時代も過ぎ去っており、世界各国の同様の取組みとの調整を図りコストダウンすべきではないか
- ・ 20年度／24年度の予算減3億円は2事業のみによるもので、ややミスリード気味の資料
- ・ 事業の目的とスキームを抜本的に再考すべき、特に傭船については船を用いるかをはじめとして再考すべき
- ・ 全体プログラム、スキームの大幅な見直し、改善をしない限り存続は認められない。
- ・ 費用対効果以前の問題

＜内閣府 青年国際交流事業＞

○今上陛下の御成婚記念として始まって以来、皇室の関わる事業として諸外国から高い評価
 ○日本や各国を代表する青年同士が、多国間や相互での交流を行うことによって、国際的視野を広げ、理解と友好を促進し、国際協調の精神と実践力を向上させ、リーダーシップを発揮できるようなことに、国際的視野を広げ、理解と友好を促進し、国際協調の精神と実践力を
 ○参加各国の青年からは、政治指導者を始め各界のリーダーを数多く輩出



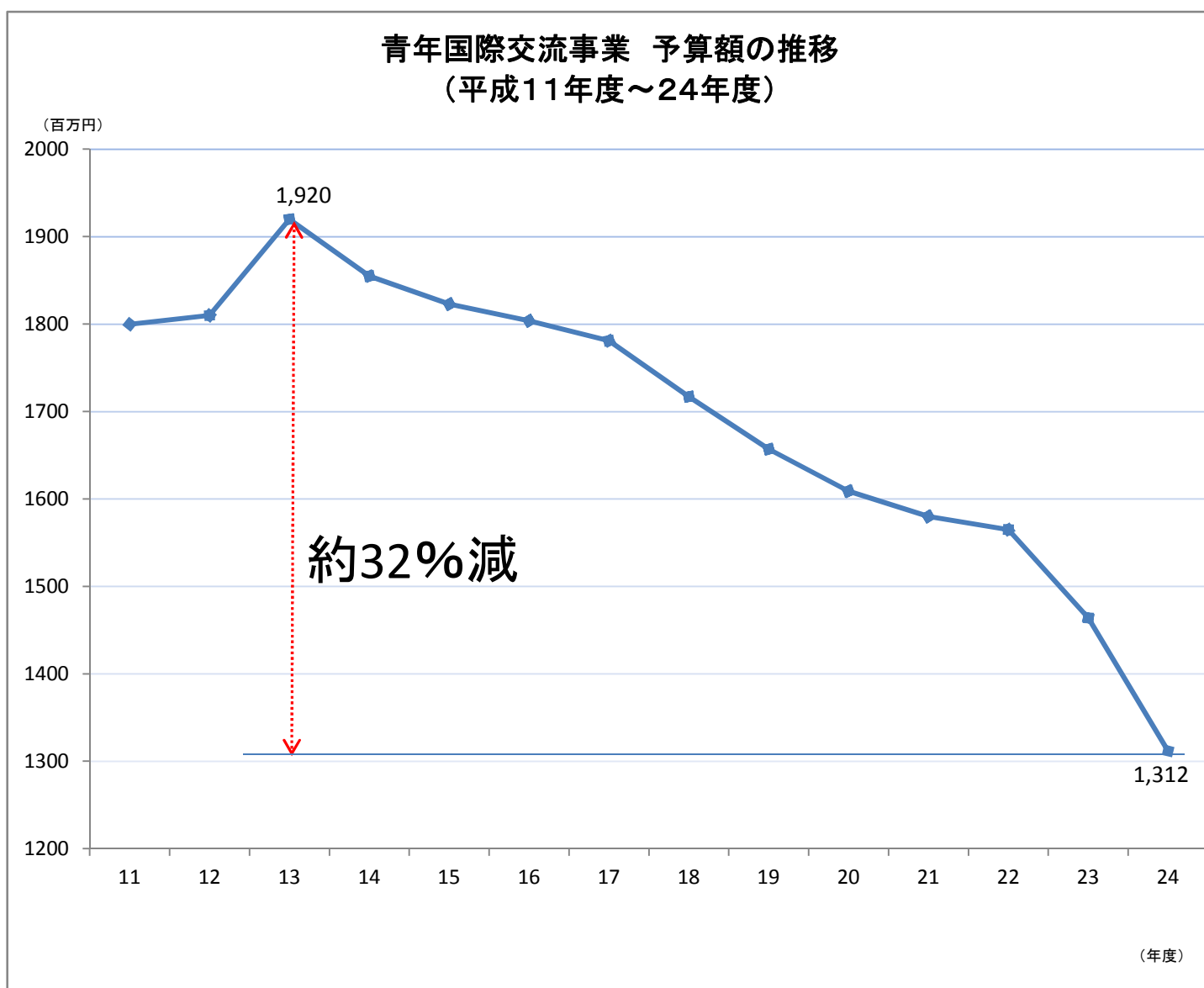
※1 「日本・ASEANユースリーダーズサミット」は、ASEAN青年・日本青年など約500名が国内合宿型のディスカッション及び文化交流を実施するもの。
 ※2 「国際青年育成交流」は、国際青年育成交流に参加する日本青年・外国青年、日中・日韓交流に参加する日本青年など約200名が社会貢献等について討議等するもの。
 ※3 平成24年度の「世界青年の船」事業は、世界10か国の青年と日本青年が、20日間程度航海し、途中日本国内3か所に寄港するとともに、航海終了後、日本青年は5グループに分かれて1週間程度外国を訪問する。

青年国際交流事業別年度予算

(千円)

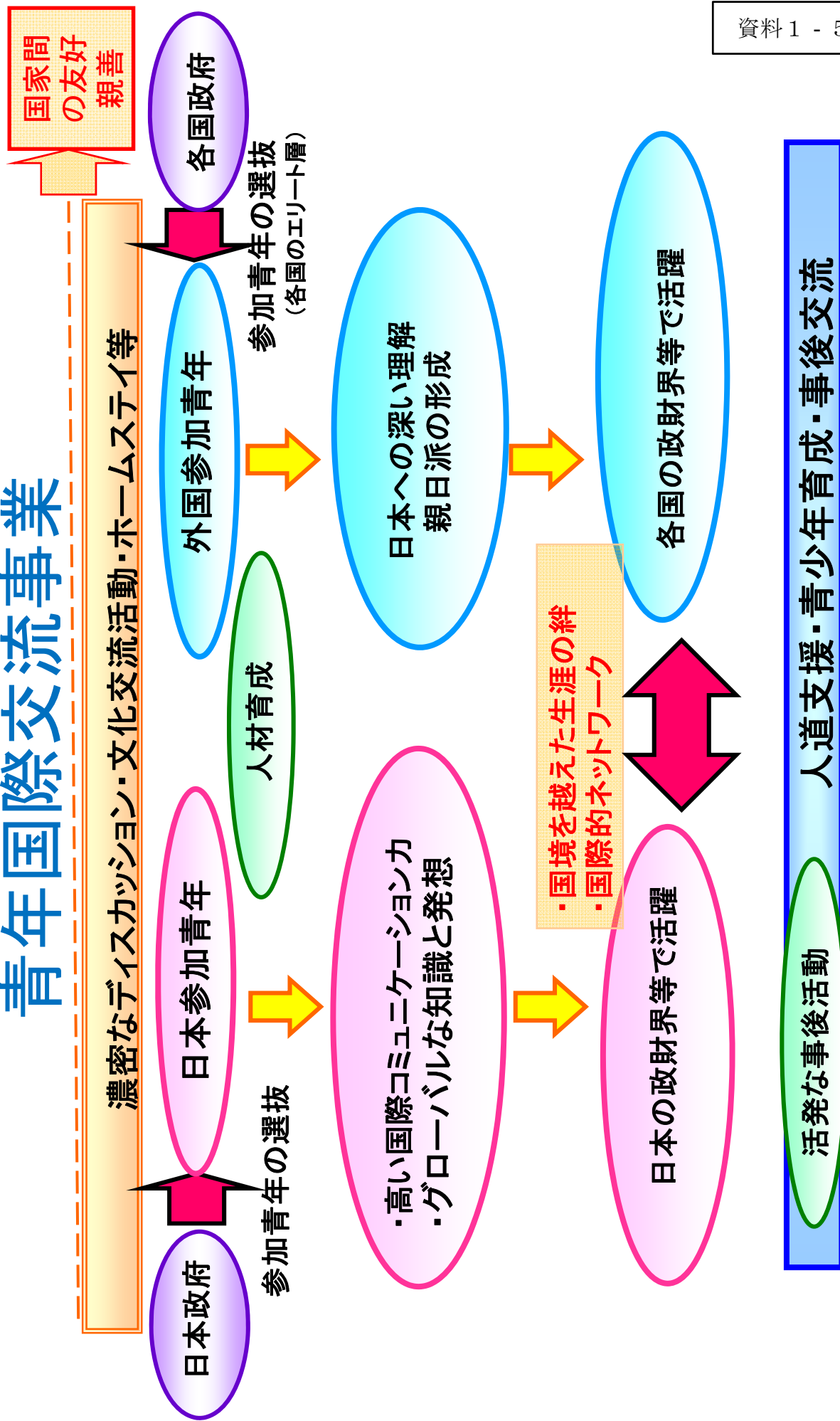
事業名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
国際青年育成交流事業	252,544	141,418	141,418	135,371	114,358
日本・中国青年親善交流事業	22,540	29,395	29,395	29,395	27,687
日本・韓国青年親善交流事業	23,296	29,480	29,480	27,063	25,293
世界青年の船事業	568,562	596,167	592,370	519,495	391,903
東南アジア青年の船事業	629,703	638,542	638,844	628,798	632,146
青年社会活動コアリーダー育成プログラム	68,345	92,096	92,096	87,542	86,926
活動充実強化経費	44,262	52,529	41,282	35,916	34,122
計	1,609,252	1,579,627	1,564,885	1,463,580	1,312,435
対前年度比	-2.9%	-1.8%	-0.9%	-6.5%	-10.3%

青年国際交流事業 予算額の推移
(平成11年度～24年度)



内閣府青年国際交流事業の効果

青年国際交流事業



青年国際交流事業の事後活動組織

- 参加青年の大部分が事後活動組織に参加し、活発に活動。
- 世界57か国に組織されるなど、世界的な人的ネットワークを形成・発展。
毎年各国が持ち回りで主催する世界大会等には世界各国から多数の青年が参加。
- ネットワークを活かし、大規模災害時の支援、途上国教育支援、国際交流活動
(日本での異文化理解促進、海外での日本文化紹介等)などの社会貢献活動を積極的に実施。

東南アジア青年の船

ASEAN10か国全てに設立
外国人事業参加人数累計
9182人
国際的組織：
SSEAYP International
毎年1回総会を開催
2012年は日本で開催。外国人
約350人、日本人約230人が参加。
(自己負担)

日本青年国際交流機構 (IYEO)

会員数 約 15500人
(既参加日本青年：約15600人)
全国47都道府県に支部
各国事後活動組織と連携

KIYEO

参加韓国青年数の累計：823人
毎年、日韓交流連絡会議を開催。

世界青年の船

世界45か国で組織
外国人事業参加人数累計
：3639人
組織がある国の参加人数：3405人
国際的組織：SWYAA
毎年1回国際大会を開催

2011年メキシコ：約70人(15か国)
2010年エジプト：約180人(24か国)
(いずれも自己負担)

世界青年の船事後活動組織45か国の内訳

(アジア) バングラデシュ、インド、スリランカ (大洋州) オーストラリア、フィジー、ニュージーランド、ソロモン、トンガ、バヌアツ
(中近東) バーレーン、オマーン、カタール、トルコ、アラブ首長国連邦、イエメン (北米) カナダ、米国
(中南米) ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、メキシコ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ
(欧州) ベルギー、フィンランド、ギリシャ、オランダ、ポーランド、ロシア、スペイン、スウェーデン、英国
(アフリカ) カメルーン、エジプト、ケニア、モーリシャス、セーシェル、南アフリカ共和国、タンザニア